

メディア掲載情報

内閣府「生涯活躍のまち推進事業」を牽引する
(一社)生涯活躍のまち推進協議会の定期刊行書
「生涯活躍のまち」2023年2月号に
当社の取り組みが特集されました！



高 齢者の栄養バランス、咀嚼や嚥下機能も考慮し、かつ地域の産物を活用した美味しい食事を提供することで一次産業に携わる方々にも利益を還元する—全国各地において食を通じた地域の再生に取り組んでいるのが株式会社シニアライフクリエイティブである。2000年4月に介護保険が導入された際、在宅での食事という見えづらい部分に光を当て、食事の楽しさを失うことなく、高齢者のフレイル予防という課題に取り組もうと思ったのが創業のきっかけだった。当協議会は昨年11月22日に同社の高橋洋代表取締役社長に講師を依頼し、「生涯活躍のまち『健康』セミナー(オンライン)～食とまちづくり～」を開催。今号ではその内容を紹介する。同セミナーでは高橋社長の講演後に東海大学特任准教授の後藤純先生、(一社)在宅介護ケア推進基金業務執行理事の冨田実さんを交えての商談、そして参加者との質疑応答、議論を行った。そこから見えてきたのは地域における「食」の課題は多職種連携で対応しなければならないということである。生涯活躍のまちの機能を活かさない手はない。

健康支援型配食サービスと地産外商プロジェクト

高橋 洋さん 株式会社シニアライフクリエイティブ 代表取締役社長



1968年8月7日生。東京都葛飾区出身。大学卒業後、小中学生対象の志望校を算する専ら、宅配事業を手掛ける。1999年に創業社の前身である株式会社エクスタッシュを創設。2010年に株式会社シニアライフクリエイティブに社名変更。現任も、健康は命。産物は絆。「知行合一」。

健康支援型配食サービス

当社は1999年12月に創業した。きっかけは、大阪市生野区で高齢の知人が経営する弁当店を手伝っていた際、病院から退院したものの、手足が不自由で買い物に行けない方、火を扱うのが危ない方向けにお弁当の配達をしたことだった。配達先では、6個入りのあんぱんを2日に分けて食べながら、離れて暮らす息子さんには「何も心配いらない。きちんと食事をしている」と言っている方、大衆食堂の出前は1,000円以上でないと頼めないで、井とうどん等を併せて注文し、食べながら捨てている方などの存在を知った。そして、家路のなかの目に見えない「障」となっている問題に光を当てて、それを解決したいと思った。

介護保険は翌年4月から導入されたものの、スタート当初の助成金は建物の設備や介護が中心で、食事に關するものは対象外だった。しかし、食事は生活をする上で不可欠であり、かつ面倒なこともある。年金だけで生活されている方には価格を安く提供することも必要だ。そうした背景からスタートし、現在にいたっている主な事業は以下の通りである。

宅配クック ワンツウスリー

高齢者向け宅配弁当。「ワンツウスリー」は向こう三軒両隣を表している。都市では「隣の人は何する人ぞ」というように、ご近所との交流が乏しい。一方、地方では人口が減少し、お隣さん自体が少なくなっている。私たちは高齢者一人ひとりの変化に気づける存在になりたいという思いから、この屋号に定めた。

当社は日本全国100%の配食網を目指している。現在は約40%をカバーし、高齢者人口2,929万人に対する配食環境を整備。月間平均食数は約300万食、毎日約10万食を提供しているほか、これまで461の行政区と間で安否確認



を含めた配食の受託契約を締結した(2022年10月1日現在)。福島(宮古島、仲永良部島-沖崎島、徳之島-鹿兒島県、巻岐島、五島列島-長崎県、小豆島-香川県、佐渡島-新潟県、利尻島-北海道など)で食事の用意に不便を感じていらっしゃる方々にも、収益性、採算性が合わないのでは出店しないという考えはとらず、「島民の方々の在宅生活の一助になる」ことをモットーに展開している。

特約店

高齢者施設および病院向け食料供給サービス、「宅配クックワンツウスリー」で使用している惣菜を中心にネット販売を通じて配達している。当該施設や病院の人材不足の解消や業務の軽減にも寄与している。

おふくろ惣菜

若者男女を問わず提供している。本事業の収益源を「宅配クックワンツウスリー」の継続に活用し、二次離島(本土との間を直接結ぶ公共交通手段-航路-航空路がない離島)へも配達できるビジネスモデルを構築中である。

結の台所

高齢者施設および病院向けの惣菜をその場で作る厨房委託を受け、健康寿命の延伸の一助になれるよう努めている。

昭和漁獲倶楽部

高齢者向けコミュニティサロン、高齢者が気軽に集まり、健康づくりや食事のできる場所を提供している。在宅配食は利便性や安否確認も含めメリットが多い一方、便利すぎると引きこもりしてしまう。私たちが目指している健康寿命の延伸には逆効果だ。現在、北海道札幌市清田区、岩手県洋野町、香川県土庄町(小豆島)、高知県土佐清水市など、全国8カ所で開催。うち土佐清水市では地

元の子どもたちも抱えている。先日は地域の子どもが、高齢者向けの魚に骨がないことを指して、「どうしておばあちゃんのお魚には骨がないの!」おばあちゃんの喉に刺さったら危ないで取ってもらっている。本当はお魚にはみんな骨があるんだよ」といった会話を耳にした。

健康直球砲

B to Cのネット通販の形で冷凍弁当の宅配を行っている。

当社は、介護・フレイル予防、疾病・重症化予防に資する健康支援型配食サービス「宅配クックワンツウスリー」を通じて、地域高齢者の健康寿命の延伸に貢献するため、①安否確認、見守り、お声がけ、②厚生労働省が定めた配食ガイドラインに準拠した栄養価、とくにたんぱく質摂取の向上(毎食たんぱく質20g前後)を重視したお弁当の提供、③専門職による無料の低栄養チェックという実証実験を通じた低栄養状態の方の振り起こし、といった介護の重症化の予防を産官学連携で行っている。②、③については、口離れの維持、多歩み対応のよう配慮した新メニュー「辛(し)あわせたんぱく(食)」を2023年4月から全国で順次販売する計画もある。入院中ならびに退院後の栄養管理も、病院と連携しながら、低栄養ケアプランに準ずる形で行ってきたい。

地産外商プロジェクト

健康寿命の延伸には身体と心の栄養の両方が必要と考え、地方の食材を全国で消費する仕組みを構築し、「健康支援型配食サービス」を通じて、高齢者の健康寿命の延伸と地域活性化の両立を目指す。これが「地産外商プロジェクト」である。その土地で生産される食材をお弁当の献立として活用することで、安定的に消費を図る取り組みだ。たとえば、高知県土佐清水市では宗田かつおや地元でしか消費されていなかった魚を使った惣菜、反証が閉鎖され人口が360人程度まで減少している同県大川村では、地



当社の取り組みが特集されました！

生涯活躍のまち推進協議会の定期刊行書「生涯活躍のまち」は、各地の地方創生の取り組みや国の地方創生政策の解説、各種イベントの報告など生涯活躍のまちづくりに関する情報を提供しています。2023年2月号では、当社の健康支援型配食サービスや地産外商プロジェクト、『宅配クック123』の成り立ちの説明をはじめ、さまざまな業種の方との質疑応答や議論などが5ページにわたって特集されています。

生涯活躍のまち
35
食とまちづくり

健康支援型配食サービスと地産外商プロジェクト
健康直球砲
おふくろ惣菜
結の台所
昭和漁獲倶楽部